

シニア団体活動支援事業は、元気な高齢者が地域の活動に参加するきっかけをつくり、高齢者の社会参加と自主的活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを目的としております。この広報誌では、年齢を感じさせず、いきいきと活動している本事業登録団体をご紹介します。

真野川夢づくりの会

市町村	南相馬市鹿島区	会員数	21名
連絡先	0244-4613076	年齢構成	60歳～81歳
活動内容	真野川河川の草刈り	活動場所	真野川周辺
代表者	会長 萩原 勝(はぎはらまさる)	日時	真野川祭(河川敷) 毎年1月～9月 真野川河川草刈り
会費	実費	実費	

〈真野川の河川敷での活動〉

川辺の草が最も生い茂る6月から8月下旬にかけて、鹿島の中心を流れる「真野川」の堤防や河川敷のおよそ300mを早朝5時から、自前の草刈り機を携えた会員達が休憩も忘れるほど夢中になって草刈りを行う。また冬にはその河川敷にて、鹿島の冬の風物詩となっている「どんと祭」が会員主催で執り行われる。「真野川夢づくりの会」の名の通り、全ての活動は川とともにある。



左から会長の萩原勝氏、副会長の石井盛忠氏、広報担当の烏中清氏にお話を伺った。

会員は全員男性。個人所有の草刈り機を携えて、一心不乱に草刈りを行う。



〈真野川の流れのように〉

昔は川で泳いだり魚やカニを採ったりしたが、今では親しむ機会が殆どない。会員の多くが「真野川」を「母なる川」としてきただけに、再び親しまれ夢のある川づくりを自分たちの手で進めていきたいという思いのもと、本会が結成された。活動は、季節ごとに無理せず行っているが、日課の一つとして草刈りを行う者、毎朝のウォーキングで川縁を限なく歩く者など、会の活動以外にも自主的に真野川を訪れる。川の流れのように、こんなに静かに活動を続けていく姿は、シニアの団体として長く続けていく一つの在り方である。



今年1月のどんと祭の様子。

は、シニアの団体として長く続けていく一つの在り方である。

ブルーハワイフラクラブ

市町村	福島市	会員数	19名
連絡先	0241-54910900	年齢構成	45～80歳
活動内容	フラダンス (2年に1度大きな会場での発表)	活動場所	毎週月曜日 10時から11時30分 (月3～4回)
代表者	会長 佐藤久美(さとうくみ)	日時	蓬萊学習センター分館
会費	実費	実費	

〈フラダンスが毎日の活動力に〉

フラダンスがブームであった平成15年に、育成会(子供会)で一緒になった母親同士が中心となり本会が結成された。月3～4回、90分の練習はハワイアン音楽とともに非常に和やかな中で行われている。活動拠点の学習センターに地区外から通う方、夫の介護と両立しながら通う方、他国出身の方、自身の病気と闘いながら通う方など、環境は様々ではあるが、練習への参加こそが日々の活力となっているとのことであった。



前列右から3番目の鈴木洋子氏が講師となり、メンバーに指導を行う。



お揃いのパウスカート(フラダンス用スカート)をまとい、ハワイアン音楽に身を委ねながら練習を行う。



平成25年のハワイアンズのステージにおける発表は、クラブのメンバーにとって大きな思い出となっている。

〈穏やかな音楽とともに〉

「フラをやる自分は女優になれる」「フラをやることで若く美しくいられる」とメンバーの皆さんは純粋にフラダンスを楽しまれているとともに、「講師先生の人柄が、長く・楽しく・美しく続けられる一番の要因である」とのこと。講師の鈴木氏からも「グループ内のコミュニケーションを第一に」とフラダンスはもとより、その人間関係も大切にされている。流れる心地よいハワイアン音楽はそのままグループの雰囲気となっていた。入会・問合せについては、代表まで。

元気な町内会の活動報告 (高齢者支え合いコミュニティ支援事業)

福島県では平成28年度から、元気な高齢者が身近な地域で社会活動に参加するきっかけをつくり、健康でいきいきと生活している町内会の取組を支援しています。本年度支援団体をご紹介させていただきます。

柴宮町内会

〈柴宮町内会について〉

郡山市内のベッドタウンとして発展し、昭和40年当時は40戸足らずの地域だったが、現在では300戸を超える大きな町内会のうちのひとつである。また、以前は地域の8割が農家であったため、当時の横のつながりの良さも色濃く残り、協力的な伝統を引き継いだ地域となっている。

〈「柴宮案山子祭り」を中心に地域の交流の活性化へ〉

地域の大きな行事の一つに「柴宮案山子祭り」がある。平成19年から始まった祭りは、急速に増えた会員同士のつながり不足を解消するために始まったものである。町内会役員が地域の小学校へ出向いて子供達に案山子づくりを伝え、それに伴って保護者たちも協力してくれることとなり、現在では地域内の復興住宅の方たちも巻き込んだ大きなイベントとなっている。

その一方で、町内会の高齢者を集めて週1回地域の集会所で健康体操及び茶話会を行って、高齢者を孤立させないような仕掛けづくりも行っている。今後は年間を通して、多世代の会員が交流できるように進めていきたいとのことであった。

市町村	郡山市		
代表	会長 橋本和榮 (はしもとかずえい)		
加入世帯数	302世帯	所属人数	1,130名



会長の橋本和榮さんは「町内会の仕事を通して様々な方と交流できるのが楽しいんです」と話されていた。



「あさかの案山子祭り」の1コマ。田んぼと青空が背景になり、案山子の表情も心なしか微笑んでいるように見える。



「あさか野案山子祭り」の子供達の審査の様子。実際に展示されている田んぼを見ながら、子供達も審査員の一人となって真剣に審査する。

原釜町内会

〈原釜町内会について〉

東日本大震災の発生により甚大な被害を受けた原釜地区は、震災から6年を経て、北と南に分かれていた町内会が合併し、様々な活動を行っている。町内にある津神社を中心に1月の初詣から始まり、4月の例大祭では伝統の神楽や剣舞などが奉納され、11月の新嘗祭まで、郷土の文化を大切に継承しながら町内会活動を行っている。

〈地区の文化をこれからに向けて〉

町内会行事の一つに、10月の防災防犯講習会及び芋煮会がある。震災を深く経験した地域だからこそ、緊急時に対応できるような住民意識としたいというのがその狙いである。当日は、「避難経路は？避難場所は？」を意識してもらいながら会場に集まり、AEDを使った救命処置訓練、毛布で作った担架による人命救助訓練などを行った。また、炊き出し訓練も兼ねた芋煮会を行って町内の親交を深める機会となり、町内の約1/3が集まった事業となった。様々な経験を経て、大切な文化が未来に向けてつつがなく続いていくよう努めていきたいという会長の言葉が印象的であった。

市町村	相馬市		
代表	会長 熊谷秀治 (くまがいしゅうじ)		
加入世帯数	140世帯	所属人数	320名



10月14日に実施された「防災防犯講習会及び芋煮会」では、130名ほどの町民の参加となる大きな事業となった。



芋煮会では、子供も高齢者も一同に集まり、顔と顔を突き合わせて、飲んで食べて楽しい時間となった。



会長の熊谷秀治さんは「大変な部分もありますが、地域の役に立って嬉しい気持ちも大きいです」と話されていた。